

News Letter



三菱UFJ国際財団ニュースレター1号の発刊にあたって

三菱UFJ国際財団は2008年に三菱銀行国際財団とUFJ国際財団が統合し誕生しました。今年、統合誕生から15年目を迎えたことを機に、新たにニュースレターを発行し、私どもの活動やトピックスなどを皆さまにお届けいたします。ニュースレターは今後、定期的に発行し、当財団HPに掲載いたしますので、是非ご覧ください。

人材育成事業

当財団では将来を担う若い世代の学業の支援、そして人材育成の支援を以て国際理解と国際交流の推進に貢献することを目指し、2023年度はアジアの大学生、大学院生を対象に

海外育英奨学金

国内留学生奨学金

海外留学生招聘

の3事業を行っております。



このうち、1984年よりスタートした海外育英奨学金は、今年度、アジア13か国、31大学で学ぶ470名の大学生・大学院生に奨学金の支給を予定しており、また13カ国のうちスリランカ、インドネシア2カ国で奨学生への奨学金授与式を予定しております。

国内留学生奨学金は日本国内の大学・大学院*に在学するアジア諸国からの留学生（大学生4名・大学院生12名）を対象に奨学金を支給しています。

*大学は指定校制（東京大学・一橋大学・慶應義塾大学・早稲田大学・立命館アジア太平洋大学）

7月14日には大学院生12名に奨学金授与式を4年振りに対面で開催、また9月15日には留学生の交流イベント（大相撲観戦）を開催しました。

海外留学生招聘は9月7日、カンボジア、ベトナムよりそれぞれ1名の学生が来日、名古屋の南山大学に入学し、2024年5月まで日本語を集中的に学習し、日本の社会と文化などについて理解を深めていただいております。



7月14日奨学金授与式



9月15日交流イベント



国際交流事業

当財団では国際理解と国際交流の推進に繋がる活動・事業に対し1982年より助成金を支給しております。2023年度は一般公募で申請された団体から審査・選考の結果、44団体に助成金の支給を行うほか、自主企画助成として2団体に助成金を支給しております。

このうち一般公募より3団体、自主企画助成より1団体、計4団体の今年度の活動をご紹介します。

(一財)国際教育振興会／第75回日米学生会議



団体の概要

日米学生会議は1934年に発足した日本初の国際学生交流プログラムです。毎年、日米交互に開催され、両国から同数の学生が約3週間、共同生活を送りながら様々な議論や活動を行い、世界の様々な問題に対して学生同士の活発な議論を行うとともに、社会に提言もし、両国の参加者間の相互理解を深めていくことを目的としています。

2023年度の活動内容

第75回日米学生会議本会議は8月2日から26日まで京都、長崎、東京の3都府県を周って開催され、日米の学生71名が参加しまし

た。米国側学生の来日は2019年の第71回会議以来となります。今回「Foundations – laying on groundworks for bilateral reflection and reimagination ~価値の再考・未来への思索~」を総合テーマとし、更に、文化と芸術、環境と科学技術、国際政治と日米関係、法と道徳、言葉と哲学、社会階層と多様性、持続可能なビジネスの7つの分科会テーマに関する議論も行われました。京都サイト(8月2～11日)では、裏千家で茶の湯体験や金剛能楽堂での能鑑賞等日本の伝統文化に触れた他、京都外国語大学の学生達との「伝統と革新」に関する討議、グローバリゼーションや食循環に関する講義、地元の大学生や高校生を交えて討論を行いました。続く長崎サイト(8月11～17日)では、自衛隊佐世保基地において地政学的見地から佐世保が果たす安全保障上の重要性や役割、佐世保商工会議所において経済効果を含む米軍基地の佐世保における役割を学んだほか、長崎大学の学生4人も地元企画委員として加わり、長崎の原爆資料館等を視察し、被爆体験者の声や長崎の歴史文化を学ばせて頂きました。最終の東京サイト(8月17～26日)では、企業訪問のほか、米国大使館で東アジア地域の安全保障に関する講話や、外交官達によるパネルディスカッションを行いました。活動の総括として一般公開のファイナルフォーラムを実施し、各サイトの活動発表や分科会ごとの発表を行いました。参加学生達は今年度の会議を通じて新たな「Life-Changing Experience」を得ることができたものと思っています。

慶應義塾大学医学部国際医学研究会

団体の概要

国際医学研究会は1978年、日本で初めて内視鏡手術を導入した故・大上正裕氏らによって設立、設立理念を「医の原点の実体験」、「医学・医療を通じた国際交流」とし、国際的な医学的交流を通じて医の本質を再認識し、医師としての新鮮な感覚と深い洞察力を体得することを趣旨としています。当会は日本と社会情勢や医療事情の大きく異なる中南米諸国を活動の拠点として、世界各国で現地における医療協力、様々な医療調査、日系人移住地における集団健診、現地の医学生との交流を行うことを目的として活動しています。過去45年間に亘り、医学部の学生数名をブラジルなど中南米を中心とした海外諸国に派遣、アマゾン川巡回診療に参加し、医療アクセスのない無医村や山奥の先住民の村地域で医療活動を行うことで「医の原点」の考察を深める、サンパウロ大学やパウリスタ大学にて「日伯医学会議」を開催し、医学・医療を通じた国際交流を深め、日本の医療の課題や長所について考察を深める、などの活動を行っております。

2023年度の活動内容

まずケニアにてJICAマラリア及びスナノミ症対策プロジェクトに参加。次に、ブラジルの先住民族居住地域にて慶應義塾大学眼科学教室の清水先生が開発したスマートアイカメラという持ち



運びに便利な眼科器具を持参し、眼科検診を行いました。住民の方々には病院まで非常に遠く受診は難しいので、巡回診療を行うことは非常に有意義だったと思われます。続いてサンパウロ大学にて、日伯医学生会議や慶應義塾大学医学部外科学教室(小児)山田先生による日本の小児外科・移植外科についての講演及び議論を行いました。最後にブラジル・セアラ州の小学校にて学童健康診断を行い、身長・体重などの内科測定、眼科検診などを行いました。この地域では健診の習慣がなく、コロナ前に本会が実施以来6年ぶりの実施となりました。今後、コロナによる生活習慣の変化やスマートフォンの普及と児童の健康との関係について、事前アンケート調査と健診結果を分析し、研究を行う予定です。

特定非営利活動法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター)

団体の概要

特定非営利活動法人NICEは1990年、海外でワークキャンプ(合宿型ボランティア活動)に参加した若者7名が、「カラフルでヘルシーな世の中」を目指して設立した日本を本拠とする国際ボランティアNGOです。日本やアジア諸国で地域の方々と環境・開発・文化・教育・福祉のワークキャンプを主催し、日本から世界中にボランティアを派遣しており、設立後33年間で84,561人のボランティアが参加しています。三菱UFJ国際財団にはNICE設立2年目から国内各地のワークキャンプやNVDA(アジア・ボランティア発展ネットワーク)の立ち上げに支援を頂いています。



2023年度の活動内容

今年度は、NICEとNVDAとの共催によるアジア・ボランティアリーダー交換事業(AVS)を行いました。8月1日～9月16日の47日間、日本、フィリピン、タイ、インド、ベルギーの5カ国において、4カ国・9名(うち日本から6名)の若者が大勢

の住民や日本、世界からのボランティアと協力し、国際ワークキャンプの運営とオフィス・インターンに活躍しました。

AVSでの活動を紹介します。

タイで子ども達の英語教育キャンプを運営したMさん(日本・大学生)。

「とても綺麗な海辺で、教師も生徒もフレンドリーなので幸せいっぱいです。折り紙を教えたら、みんながハートばかり作るので、どうして?と聞いたところ、『もうすぐ母の日だから』。母の日が他の国と違う日なのも面白いです。英語を教えるのは、かなり大変ですが、すごくいい経験になっていて、充実の日を過ごしています。」

日本で文化紹介や伝統漁法の保全に取り組んだYさん(フィリピン・NGO職員)。

「とても学びの多い経験となりました。地元の人達と交流するために日本語を学んだり、自分の新たな面を見つけられました。日本での家族を見つけました。日本では、皆が自分の仕事にとっても集中していたのが印象的です。」

オンラインで行った最初と最後の研修には、財団の方にも参加頂き、参加者と交流して頂きました。

破壊、抑圧、不正の絶えない世の中ですが、微力でも無力ではないと信じ、今後も活動を積み重ねて参ります。

(一社)協力隊を育てる会

団体の概要

協力隊を育てる会は国際協力機構(JICA)が実施する「青年海外協力隊」事業を民間の立場から支援するために1976年に発足、間もなく創設50周年を迎えます。青年海外協力隊員は、原則2年間、開発途上国において現地の人々と生活を共にし、自身の持つ技術や経験を活かして課題解決に取り組んでいます。

当会は各道府県の育てる会とともにボランティア休暇制度の普及や民間企業や公務員試験での優遇措置の働きかけ等、協力隊を希望する若者たちが安心して参加できる日本の社会環境創りを続けています。多くの若者は「途上国で貧困に苦しむ人を救いたい」という想いを抱いて協力隊に参加しますが、実際に赴任してみると、現地の人は厳しい環境の中でも知恵や経験を活かして豊かに生きており、隊員の方々は日本にはない価値観や考え方を知るとともに、自身の力不足を痛感して帰国するという現実があります。

このような状況の中、当会は1987年より「帰国隊員支援プロジェクト」を実施し、JICAを離れても個人的に協力活動や開発途上国の発展に役立つ調査・研究を行っている方など、熱意と志を持ち続ける方の支援を続けています。

2023年度の活動内容

今年度は5名の方のプロジェクトの支援を決定しました。ラオスで隊員活動をされた一人は、現地の伝統的な織物を使ったアパ

レルブランドを立ち上げ、買い手が本当に欲しくなる商品を提供することで、持続的なビジネスを通じてラオスの女性の収入向上を目指しています。どのプロジェクトも、協力隊時代に培った現場目線と相手をリスペクトする気持ち、そして何よりも持続する情熱を感じ取ることができます。

過去、より安価に提供できるよう3Dプリンターを用いた義足製作会社を立ち上げた方、「富山の置き薬」方式でアフリカの医療問題に取り組む方、そして日本国内で外国人の方が安心して医療を受けられるよう母国語の通訳体制を築いてきた方など、これまでに400名近い方を支援し、各界から注目を集める人材を輩出し続けています。

帰国隊員の方々がやがて日本と世界の架け橋となるよう、国際貢献等の分野で活躍できるよう当会ではこれからも三菱UFJ国際財団と共に活動を続けて参ります。





2024年度

公募助成金のご案内

当財団では2024年7月1日から2025年6月30日までの期間に行われる国際理解・国際交流の推進につながる活動・事業に対して活動資金の助成を行う予定ですが、この度、以下の通り一般公募によって助成対象となるグループ・団体を募集いたします。

●助成対象となる活動・事業

国際交流活動を行う日本のグループ・団体に対して、海外のカウンターパーティとなるグループ・団体との間で行われる交流活動・事業に関して活動資金の助成を行います。

この交流活動・事業には日本のグループ・団体と海外のグループ・団体との直接的会合を含む必要があります。なお、営利収入がある事業など助成対象外としている事業がありますが、実質的内容により判断いたしますので、個別にご相談ください。

●活動・事業の実施時期と期間

2024年7月1日から2025年6月30日までの期間に、交流活動・事業の核となる直接的会合の実施のための海外への渡航、あるいは海外から招聘等が行われる活動・事業が対象となります。

また、交流活動・事業の核となる直接的会合は1～2日の極く短期間で終わるものではなく、1～2週間程度の日数があることが望ましいと考えております。

●活動・事業の参加者層・人数

参加者の年齢層は、大学生～30歳代の青年層が交流の主体・中心であること、人数は日本・海外それぞれ10名～30人程度、最大でもそれぞれ50人程度の規模であることが原則です。

助成を希望されるグループ・団体の皆様は、詳細を当財団HP「**2024年度公募助成金申請要項**」に掲載しましたので、こちらをご覧ください、当財団までご連絡ください。

●助成金額

一般団体（NPO法人等で交流事業を社会人が企画・実施する団体） …… 50万円

学生団体（交流事業の企画・運営全てを学生だけで実施する団体） …… 40万円

●助成金の使途

- ・旅費 … 海外渡航費、各国内での移動交通費、宿泊費など
- ・会議費 … 会場や諸設備借用の費用など
- ・印刷・製本費 … 事業において使用する資料作成等の費用など
- ・通信費 … 参加者間の連絡等に使用する費用など
- ・雑費 … 資料購入費、消耗品等の諸払、講師謝礼など

●スケジュール

| | |
|-------------|-------------------------|
| 事前相談・申請書式交付 | 2023年11月24日（金）より |
| 申請書受付開始 | 2023年12月12日（火） |
| 申請書式交付締切 | 2024年1月16日（火） |
| 申請書受付締切 | 2024年1月31日（水） （消印有効） |

